

本時の振り返り

1 第6学年『割合の表し方を考えよう』(7/9)

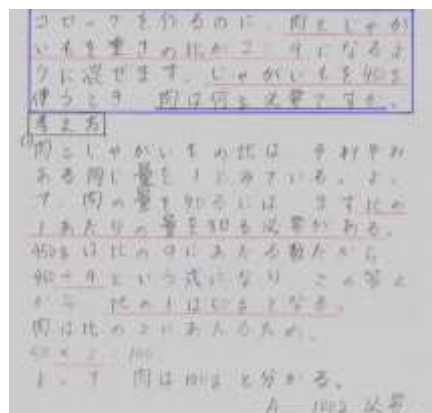
2 本時の概要

本単元では「比の性質」や「比の値の求め方」を学習し、「比を簡単にすること」や「等しい比を見つける」などの活動に取り組んできた。本時は比と一つの値を使ってもう一方の値を求める問題に取り組み、出された様々な考え方の共通点を見いださせることをねらった。

3 実践の振り返り

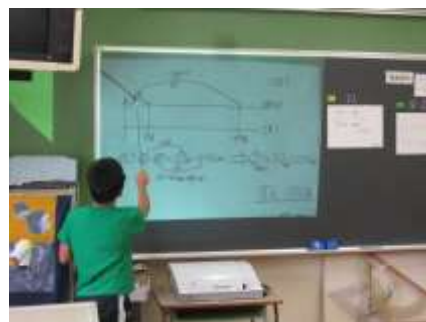
①学び合いを土台とした授業づくりを行う

児童が問題を解き終わった後に、互いにノートを持ち寄って考えを交流する時間を設けた。それと並行して、問題を解き進められない児童には教師が小集団指導を行った。これによって、一人一人の児童が主体的に授業に参加し、算数が苦手な児童も進んで問題を解こうとする姿が見られた。しかし、質問の場に来られない児童や、質問に来ている児童の中にも理解に差があることを念頭に置き、もっと簡単な問題で考えさせるなどの支援をすることが必要となる。



②共通点を見いだすことで一般化を図る

発表終了後、考え方の共通点を見いだすことで思考をつなげていくまとめの部分に課題が残った。「どのようなまとめにするのか」「授業の核心に迫るためにどのような発問をするのか」について詰め切れていなかったため、教師自身に迷いが出てしまった。「どの考え方も式に共通している部分がある。」「1の大きさを求めている」ということと共に、「図をかいて考えることのよさ」を端的に押さえ、進めるべきであった。



4 協議内容

よかった点

- ・給食の人気メニューランキングという、児童にとって身近な題材での導入がよかった。
- ・ヘルプデスクの児童とのやり取りがよかった。
- ・学習の授業の流れができていて、児童が落ち着いて授業に取り組み、迷わず動けたのでよかった。



- ・問題文の中から条件と問われていることを見つけだし、アンダーラインを引いていることで、ミスの防止につながっている。また、その積み重ねができていた。
- ・学び合いの場面が有効であった。自分のノートを周りで見せ合っている様子が見られたのがよかった。教えてもらえることで、苦手意識をもった児童も参加できるように思えた。(友達と互いにノートを見せ合っていた。) 普段から自分のことが終わったら友達と交流するようにしている様子が伺えた。
- ・導入の部分の ICT 機器が活用され、それによって授業のテンポよかった。(導入から 7 分で自力解決に入っていた。)
- ・ヘルプデスクが印象的だった。苦手意識をもった児童が授業の中で動けるようにするために、あのような支援がないといけないと思った。

改善点

- ・ヘルプデスクから戻ってきてもできていない児童がいた。もっと簡単な問題などでフォローすることも大切だった。
- ・ヘルプデスクを全ての児童対象にするのではなく、理解度を固めてみてもよかったのではないかな。
- ・ヘルプデスクに行く児童には大きく 2 つのグループ(「解き方がわからない児童」「あやふやなところを確かめに行く児童」)があると考える。その他に「質問にいけない児童」もいるので、個別支援とそのための別メニューを考えるとよいのではないかな。
- ・言葉遣いを正確にすることが大切。
- ・まとめをどのように考えていたか。「どれも同じ式になる」という押さえが大切だったのではないかな。

4 指導講評 講師：小島 宏 先生

- ・自分で考え、それを表現しようとしていた。試行錯誤する様子から、追求意欲の高さを感じた。
- ・友達の意見を聞きながら、それを学び取って、自分の考えに加筆修正する姿が見られた。
- ・問題文から条件と問われていることを押さえさせる際に、「この問題で問われていることは何か？」を先にチェックさせてそのために必要な情報を選ばせるとよかった。
- ・授業の最後に全体のディスカッションでまとめに近づけるという流れがよかった。そのために算数の時間以外にも、そういったやり取りの仕方を学ばせ、低学年から積み上げていくようにする。
- ・まとめの段階で意見が滞った際に、もう一度ペアやグループに戻して再考させる時間があればよかった。
- ・友達の発表を聞いた後に、本当に児童が分かっているのかを確かめることも大切。それには児童同士が「どうして 50 になったの？」と質問を受けたり、それに対する答えを相手に返す力をつけていくとよい。
- ・それぞれの解き方で、同じ考え方をした児童の人数を書いていた。発表はできなくても、自分があの中(数、考え方)に含まれている、という気持ちになる。
- ・まとめの部分で「似ていること、共通していることは何か」を考察をさせた点がとてもよかった。